

**徳島県鉱工業生産指数
平成27年（2015年）基準改定の概要**

平成31年3月

徳島県政策創造部統計データ課

徳島県鋳工業生産指数の基準改定について

1 鋳工業生産指数とは

鋳工業生産指数は、県内総生産の約 4 分の 1 を占める鋳業と製造工業における生産活動を数量的な面から指数化したものであり、本県経済の動向把握や予測のための重要な経済指標の一つである。

2 改定の趣旨

鋳工業生産指数については、「指数の基準時に関する統計基準」（平成22年3月31日総務省告示第112号）において「指数の基準時は、五年ごとに更新することとし、西暦年数の末尾が0又は5である年とする」とされていることから、現行の基準時である平成22年（2010年）から5年後の平成27年（2015年）を新たな基準時とし、ウェイトや採用品目の見直しを行った。

3 平成27年基準鋳工業生産指数作成要領

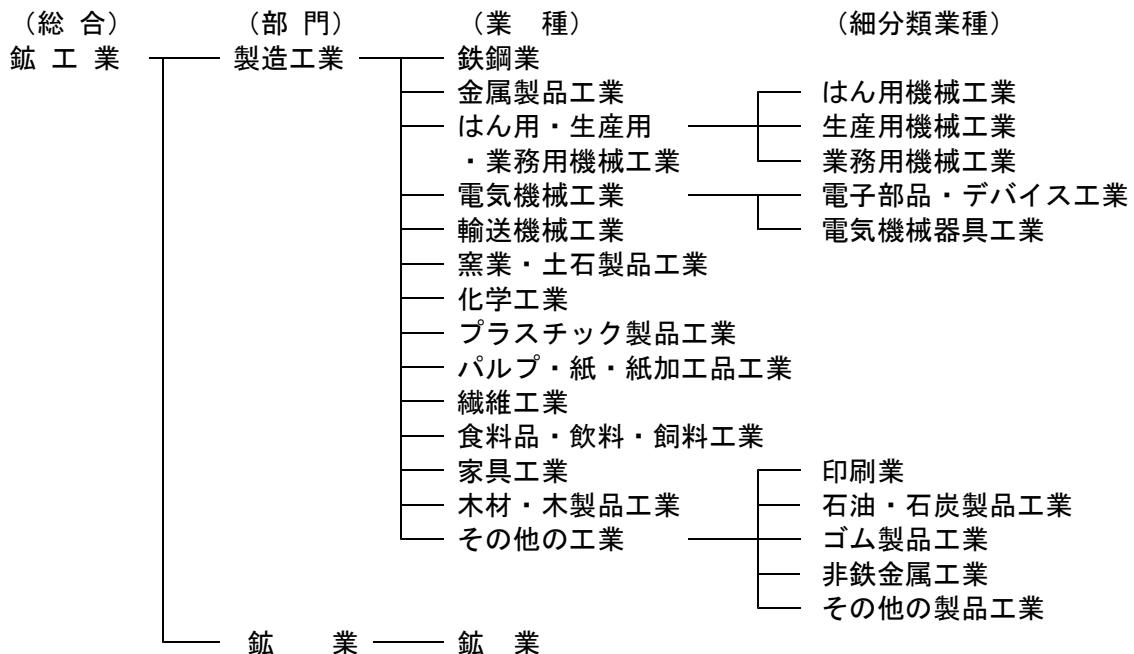
(1) 基準時

平成27年を基準年次とする。したがって、指数は平成27年の1ヶ月平均の生産量を100.0とした比率で示される。

(2) 部門及び業種分類

平成27年基準指数の業種分類は、原則として日本標準産業分類（第13回改定）（平成25年10月統計基準設定）に準拠した。

対象部門及び業種分類は、次の図のとおりであり、細分類業種を除く2部門15業種の公表を毎月行う。



(3) 採用品目（資料1-1～4，資料2参照）

県内において生産されている品目は多数におよび、全品目を採用することは事実上困難であるため、基準年次における生産額の大きなものから、代表性、重要性、系列の信頼性及び調査の継続可能性等を考慮し、94品目を選定した。

■採用品目の改廃状況

H27年基準 (A)	H22年基準 (B)	差 (A)-(B)	差		
			新規	廃止	統合
94	103	-9	0	-8	-1

(4) ウェイト（資料2参照）

ウェイトは付加価値額ウェイトを採用し、平成27年の産業構造により、鉱工業全体を10,000.0とした構成比によって表している。

業種別のウェイトは、「経済センサス—活動調査」を基礎データとして、指数の業種分類・概念に適合するよう組替えを行った上で算定した。

また、品目別のウェイトは、「経済センサス—活動調査」のほか「経済産業省生産動態統計」や各種業界統計などにより単価・金額等を推計し、業種別のウェイトを採用品目の金額構成比により按分した。

■ウェイトの変化状況

ウェイト上昇業種	ウェイト低下業種
金属製品工業 はん用・生産用・業務用機械工業 電気機械工業 パルプ・紙・紙加工品工業 家具工業 木材・木製品工業 その他の工業 鉱業	鉄鋼業 輸送機械工業 窯業・土石製品工業 化学工業 プラスチック製品工業 繊維工業 食料品・飲料・飼料工業

(5) 指数の計算方法（資料3参照）

算式は、採用品目の個別指数を基準時のウェイトで加重算術平均する基準時固定加重算術平均法、いわゆるラスパイレス算式を用いた。

$$\text{個別指数} = \frac{\text{比較時の生産数量}}{\text{基準時の生産数量}} \times 100$$

$$\text{総合指数} = \frac{(\text{個別指数} \times \text{基準時のウェイト}) \text{の総和}}{\text{基準時のウェイトの総和}}$$

(原指数)

(6) 季節指数

原系列（原指数）には、1 年を周期とする季節的要因、曜日・祝祭日要因及びうるう年要因の変動要因が含まれる。この変動パターンをあらかじめ計算して、原系列から取り除くことを季節調整といい、季節指数で原指数を除す方法で季節調整済指数を算出した。

$$\text{季節調整済指数} = \frac{\text{原 指 数}}{\text{季 節 指 数}} \times 100$$

季節調整法は、平成 22 年基準に引き続き X-12-ARIMA (Ver.0.3) を採用することとし、以下について変更した。

・ ARIMA モデルについて、異常値処理した数パターンを検証した結果、(011) (011) のスペックを採用

(7) 指数の接続

基準の改定によってウエイト及び採用品目に変更されるわけであるから、新指数と旧指数とは異質のものであり、厳密な意味での比較は不可能である。しかし、指数を個別系列として使う場合は、指数の連続性を確保する必要があるため、ここでは次の方法により接続を行った。

- ①平成 25 年 1 月を接続時点として、新基準で平成 25 年 1 月まで遡及
- ②平成 25 年 1 月から 3 月における新旧両指数水準の比率をリンク係数（接続係数）として、旧基準の平成 20 年 1 月まで遡及

$$\text{接続係数} = \frac{\text{平成 27 年基準の平成 25 年 1 ～ 3 月の平均指数}}{\text{平成 22 年基準の平成 25 年 1 ～ 3 月の平均指数}}$$

4 平成 27 年基準への切替

平成 27 年基準指数値へは、平成 31 年 1 月分速報（平成 31 年 3 月公表）から、切り替えを行い、平成 20 年 1 月分以降の過去系列についても併せて公表を行う。

【資料1-1】平成27年基準品目一覧表

部門・業種分類名		ウエイト	品目数	番号	品目名	単位
鋳工業		10000	94			
I	製造工業	9989.4	91			
①	鉄鋼業	81.7	3	1	フェロアロイ(合金)	t
				2	鋼管	t
				3	鉄スクラップ加工処理品	t
				4	建設用金属製品(鉄構物)	t
②	金属製品工業	309.7	5	5	ボルト・ナット	t
				6	金属製サッシ・ドア	t
				7	アルミニウム製建具	t
				8	製缶板金製品	kg
③	はん用・生産用・業務用機械工業	558.7	7			
a	はん用機械工業	322.5	2	9	玉軸受	千個
				10	ころ軸受	千個
b	生産用機械工業	223.5	4	11	食品機械・同装置部品	千円
				12	木工機械・製材機械	千円
				13	包装機械	千円
				14	プラスチック用金型	組
c	業務用機械工業	12.7	1	15	歯科材料製品	個
④	電気機械工業	2888.8	6			
a	電子部品・デバイス・電子回路工業	2,632.6	2	16	発光ダイオード	千個
				17	水晶振動子	千個
b	電気機械器具工業	256.2	4	18	変圧器	台
				19	電力変換装置	台
				20	リチウムイオン蓄電池	千Ah
				21	医療用計測器	台
⑤	輸送機械工業	131.1	3	22	自動車部分品・附属品	台
				23	船舶等製造・修理	t
				24	船用機関等	千円
⑥	窯業・土石製品工業	103.2	7	25	複層ガラス	m
				26	ガラス製容器	t
				27	ガラス用品(薬びん)	t
				28	生コンクリート	m ³
				29	コンクリート製品	t
				30	厚型スレート	千枚
				31	石灰	t
⑦	化学工業	3,681.0	6	32	ソーダ工業製品	t
				33	圧縮ガス・液化ガス	千m ³
				34	塩	t
				35	その他の無機化学工業製品	t
				36	プラスチック	t
				37	医薬品	千円
⑧	プラスチック製品工業	247.0	9	38	プラスチックホース	t
				39	プラスチック建材	t
				40	プラスチックフィルム	t
				41	合成皮革	t
				42	プラスチックシート	t
				43	プラスチック製機械器具部品(電気通信用)	t
				44	その他プラスチック製品	t
				45	中空成形容器	t
				46	発泡製品	t
⑨	パルプ・紙・紙加工品工業	516.2	9	47	製紙バルブ	t
				48	印刷用紙	t
				49	情報用紙(複写原紙)	t
				50	雑種紙	t
				51	段ボールシート	千m ²
				52	段ボール箱	千m ³
				53	紙器製品	千枚
				54	大人用紙おむつ	千枚
				55	衛生用紙	t
⑩	繊維工業	99.3	7	56	化学繊維(その他の合成繊維長繊維)	t
				57	織物	千m ²
				58	染色整理	kg
				59	組ひも	kg
				60	衣類	点
				61	ニット製繊維製品(下着・靴下)	点
				62	不織布(湿式)	kg
⑪	食料品・飲料・飼料工業	703.4	9	63	肉製品	t
				64	プロイラー	千羽
				65	みそ	t
				66	めん類	t
				67	その他の食料品(レトルト)	千食
				68	菓子	千箱
				69	清涼飲料	千本
				70	蒸留酒・混成酒等	kL
				71	配合飼料	t
⑫	家具工業	134.9	5	72	いす・机・テーブル類	個
				73	たな	個
				74	木製ベッド	個
				75	宗教用具	本
				76	建具	千円
⑬	木材・木製品工業	157.8	5	77	一般製材	m ³
				78	木材チップ	t
				79	造作部材	千円
				80	合板	千枚
				81	中質繊維板	m ²
⑭	その他の工業	376.6	10			
a	印刷業	172.9	1	82	平版印刷(オフセット)	百万円
b	石油・石炭製品工業	14.1	1	83	舗装材料	t
c	ゴム製品工業	53.1	4	84	プラスチック製履物・同付属品	千足
				85	工業用ゴム製品	t
				86	ゴムホース	千m
				87	医療・衛生用ゴム製品	t
d	非鉄金属工業	0.6	1	88	アルミニウム鑄物	kg
e	その他の製品工業	135.9	3	89	革靴	足
				90	釣道具・同附属品	スプール
				91	歯ブラシ	千本
II	鋳業	10.6	3			
⑮	鋳業	10.6	3	92	けい石	t
				93	石灰石	t
				94	けい砂	t

【資料1-2】廃止品目一覧表

平成27年基準 部門・業種分類名		廃止等品目		
鉱工業				
I	製造工業			
	はん用・生産用・業務用機械工業			
③	c	業務用機械工業	はかり	廃止
⑥	窯業・土石製品工業		陶磁器	廃止
⑦	化学工業		その他の環式中間物	廃止
⑩	繊維工業		ニット生地	廃止
⑪	食料品・飲料・飼料工業		乳製品	廃止
			その他のソース	廃止
			清酒	廃止
⑫	家具工業		たんす	廃止

【資料1-3】その他, 品目に係る変更点

平成27年基準 部門・業種分類名		平成27年基準	平成22年基準	変更内容
鉱工業				
I	製造工業			
	⑩ 繊維工業	ニット製繊維製品(下着・靴下)	下着(ニット製)	統合
			靴下(ニット製)	

【資料1-4】金額単位採用品目のデフレーター対応状況

平成27年基準 部門・業種分類名	品目名	企業物価指数品目名	対応関係	
鉱工業				
I	製造工業			
③	はん用・生産用・業務用機械工業			
	b 生産用機械工業	食品機械・同装置部品	食料品加工機械	◎
		木工機械及び製材機械	生産用機器	○
		包装機械	包装・荷造機械	◎
⑤	輸送機械工業	船用機関	船用ディーゼル機関	◎
⑦	化学工業	医薬品	医家向け医薬品, 薬局向け医薬品	◎
⑫	家具工業	建具	非金属製建具	◎
⑬	木材・木製品工業	造作部材	造作材	◎
⑭	その他の工業			
	a 印刷・同関連業	平版印刷(オフセット)	平版印刷(オフセット)	◎

※表中の対応関係欄:「◎」は一致,「○」はほぼ一致

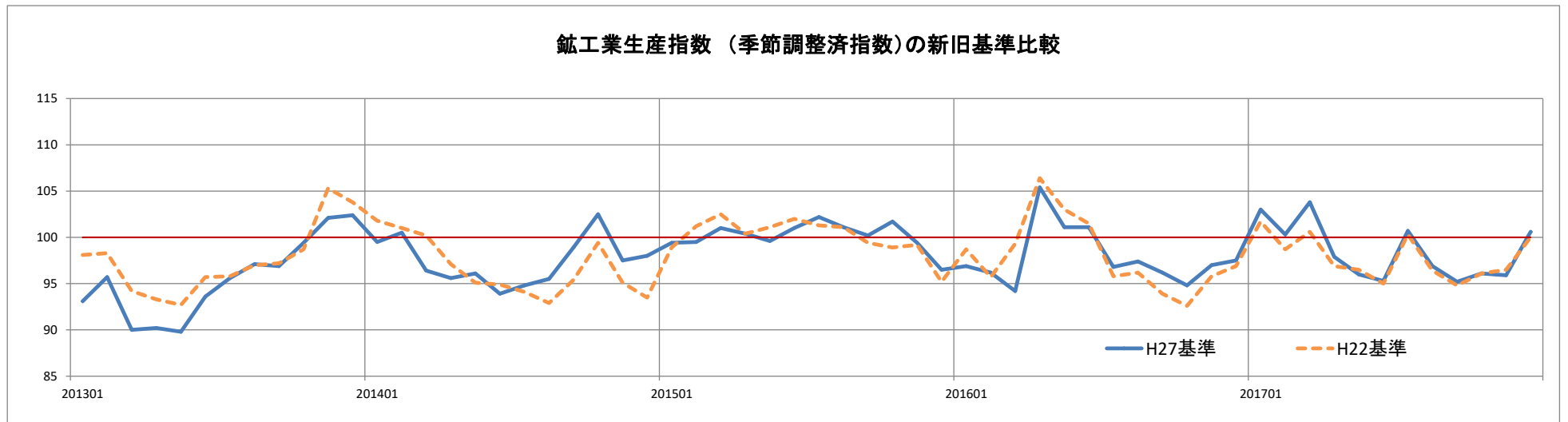
【資料2】平成27年基準 部門基準別ウエイト及び品目数の推移

部門・業種分類名	ウエイトの推移				品目数の推移			
	H27基準	H22基準	H17基準	H12基準	H27基準	H22基準	H17基準	H12基準
鉱工業	10,000.0	10,000.0	10,000.0	10,000.0	94	103	88	91
I 製造工業	9,989.4	9,994.2	9,992.1	9,987.3	91	100	85	88
① 鉄鋼業	81.7	91.1	77.9	78.5	3	3	3	3
② 金属製品工業	309.7	196.1	337.4	380.9	5	5	4	5
③ はん用・生産用・業務用機械工業	558.7	448.4	576.7	821.3	7	8	6	5
④ 電気機械工業	2,888.8	2,339.7	2,043.7	976.5	6	6	6	7
⑤ 輸送機械工業	131.1	187.8	243.0	76.5	3	3	2	1
⑥ 窯業・土石製品工業	103.2	111.6	199.0	293.5	7	8	8	8
⑦ 化学工業	3,681.0	4,242.8	3,591.9	2,977.0	6	7	9	9
⑧ プラスチック製品工業	247.0	291.2	239.1	294.0	9	9	4	4
⑨ パルプ・紙・紙加工品工業	516.2	453.6	737.9	797.0	9	9	6	6
⑩ 繊維工業	99.3	279.8	318.2	518.2	7	9	9	11
⑪ 食料品・飲料・飼料工業	703.4	787.9	1,071.7	1,807.8	9	12	10	10
⑫ 家具工業	134.9	122.4	164.3	206.9	5	6	5	7
⑬ 木材・木製品工業	157.8	144.5	201.8	315.5	5	5	4	3
⑭ その他の工業	376.6	297.3	189.5	443.7	10	10	9	9
II 鉱業	10.6	5.8	7.9	12.7	3	3	3	3
⑮ 鉱業	10.6	5.8	7.9	12.7	3	3	3	3

【資料3】徳島県鉱工業生産指数の新旧基準比較

指数品目	20000000	2A000000	2AA00000	2AB00000	2AC00000	2AD00000	2AE00000	2AF00000	2AG00000	2AH00000	2AI00000	2AJ00000	2AK00000	2AL00000	2AM00000	2AN00000	2B000000	2BA00000
	鉱工業	製造工業	鉄鋼業	金属製品工業	はん用・生産用・業務用機械工業	電気機械工業	輸送機械工業	窯業・土石製品工業	化学工業	プラスチック製品工業	パルプ・紙・紙加工工業	繊維工業	食料品・飲料・飼料工業	家具工業	木材・木製品工業	その他の工業	鉱業	鉱業
H27基準 原指数																		
平成25年平均	95.5	95.5	101.9	105.2	107.2	87.3	89.1	119.0	95.5	107.0	101.3	91.5	99.9	101.4	101.0	101.2	108.5	108.5
平成26年平均	97.3	97.3	109.7	97.8	110.0	102.3	87.6	115.1	87.6	109.8	99.9	95.1	109.1	99.5	101.2	95.9	106.6	106.6
平成27年平均	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
平成28年平均	97.8	97.8	105.7	105.1	88.9	96.4	103.6	94.0	97.0	111.3	95.7	102.0	103.8	103.9	103.8	98.1	95.1	95.1
平成29年平均	98.4	98.4	96.0	88.4	96.7	94.4	86.0	90.6	101.9	121.0	94.3	96.6	101.6	103.2	105.7	95.1	81.8	81.8
H22基準 原指数																		
平成25年平均	97.5	97.5	105.1	117.7	103.5	91.4	91.9	106.3	95.4	107.0	101.1	99.0	103.0	105.4	102.0	114.9	114.1	114.1
平成26年平均	96.7	96.7	110.3	104.7	108.2	100.9	90.8	113.3	87.6	114.5	98.8	103.1	109.3	103.7	100.4	99.6	108.3	108.3
平成27年平均	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
平成28年平均	98.0	98.0	104.1	104.7	87.6	96.4	101.3	91.9	96.8	115.5	98.3	99.7	103.5	99.8	104.0	98.8	93.6	93.6
平成29年平均	97.8	97.8	97.8	85.4	97.6	87.5	87.9	89.2	101.5	133.3	98.4	88.1	102.8	101.6	107.0	97.5	80.5	80.5

鉱工業生産指数（季節調整済指数）の新旧基準比較



注)比較のため、H22基準はH27年平均=100.0に換算し作成しています。